

## 8. ピョウタンの滝と発電

川で行われた大きな工事

川にしながら  
ふだんの暮らし

川にしながら  
農業

川にしながら  
漁業や工業

付録



ピョウタンの滝。札内川、中札内村南札内。

### (1) もとは発電ダムだったピョウタンの滝

ピョウタンの滝は、中札内村の札内川園地の入り口にあり、札内川を代表する観光名所になっています。

しかしもともとは、昭和26年(1951)から2年以上かけて造られた中札内農協の発電ダムでした。

昭和29年(1954)1月、中札内村、大正村(当時)、更別村の750戸に電灯をともすことができました。

「村内一面の家庭の中は夜が明けたように点灯された。一球、一球の光は祭のように賑わった(中札内村史)」と、村に大きな喜びをもたらしました。

(参考:「中札内村史」中札内村史編纂委員会、中札内村役場、1968)



上札内からピョウタンの滝へ向かう途中、右手にある「旧札内川小水力発電所跡」。左は、道路ぞいにある案内板。

### (2) 押し寄せた土石流

しかし、完成した次の年、昭和30年(1955)7月、すさまじい大雨が札内川上流域をおそいました。

札内川は大洪水となり、大量の土石流と流木が押し寄せました。

発電所のダムはあっという間に土砂でうめつくされ、発電所の建物もこわれて流されてしまいました。

発電所の再建は、あきらめられることになりました。



土砂によってうまってしまい、流木が引っかかっている農協発電ダム。昭和30年(1955)7月。



洪水におそわれる農協発電ダム。昭和30年(1955)7月。

※1 土石流(どせきりゅう): 山腹がくずれた時の土砂(どしゃ)や、谷にたまった土や石が、雨水・洪水(こうずい)などと一体となって、溪流(けいりゅう)や斜面を一気に流れ下ること。

※2 キロワットアワー(kWh): 電気を使った量の単位。電力×時間。100ワット(W)=0.1キロワット(kW)(※3)の電球を10時間つけた時、1キロワットアワーとなる。

※3 ワット(W): 電力(電気が仕事をする力)の単位。1,000W=1キロワット(kW)。1